

## 学校紹介

### 埼玉県立浦和工業高等学校

#### 1. 学校の沿革

- 昭和 35 年 9 月 誘致期成会（浦和市）において、  
県立工業高等学校を浦和市に誘致することを決定
- 昭和 36 年 4 月 埼玉県教育委員会告示第 14 号  
により設立公示 電気科 3 学級  
生徒定員 360 名
- 昭和 37 年 1 月 生徒募集定員 電気科 160 名、  
機械科 120 名に決定
- 昭和 37 年 4 月 浦和市立高砂小学校内仮校舎に  
移転
- 昭和 37 年 11 月 西堀 1270 番地に建設中の校舎  
第一期工事竣工移転
- 昭和 59 年 4 月 生徒募集定員 電気科 160 名、  
機械科 120 名、設備システム  
科（共学）40 名とする
- 平成 4 年 4 月 生徒募集定員（共学）電気科  
80 名、機械科 80 名、設備シ  
ステム科 80 名、情報技術科  
40 名とする
- 平成 7 年 3 月 新実習棟竣工（外構工事完了）
- 平成 14 年 4 月 生徒募集定員（共学）電気科  
80 名、機械科 80 名、設備シ  
ステム科 40 名、情報技術科  
40 名とする
- 平成 23 年 11 月 50 周年記念講演会および芸術  
鑑賞会举行

本校は、昭和 36 年に開校した県立工業高等学校（男子校）である。当初は、旧県立南教育センターの設立場所に建設される予定であったが、敷地面積、土地買収等の問題に発展し、最終的に現在の西堀地区に決定した。開校当初は県立浦和高等学校を間借りしてのスタートであった。当然のことながら実習環境は整備されていないため、県立川口工業高等学校で実習を行った記録が残されている。現在、卒業生は 13,000 人を超え、国内



を中心に企業等で活躍している。昨今は、生産拠点が東南アジアを中心としていることから、卒業生のベテランが海外に赴任することが多くなっている。

#### 2. 進路指導

卒業生の 70～80% が地元企業を中心に就職している。進学する生徒は 20～30% である。大学進学は、そのほとんどが指定校推薦等の制度を活用している。進学の内訳で最も多いのが専門学校である。

#### 3. 教育目標

平和と民主主義を基調とする日本国憲法にのっとり、民主的で自主・自立の精神に充ちた、心身ともに健康な人格の完成を目指す。

- ①知性の高揚：自律的精神を培い、広い視野と豊かな教養を持ち、高い知性を求める人間を育てる。
- ②技術の錬磨：現代社会の急速な進展に応じられる科学技術・技能の基礎を身につけさせる。
- ③誠実さの養成：責任を重んじ、つねに真摯な態度で事にあたる誠実な人間性を養う。
- ④心身の錬磨：常に健康に留意し、心身の錬磨を図る。

#### 4. 目指す学校像と本年度の重点目標

学校自己評価システムシートにおいては、目指す学校像に『「技術・技能の基本を身につけさせ、誠実さの育成を目指す」～人間力を育成し、生涯にわたり社会に貢献できる人づくりの実現～』を掲げ、重点目標として次の 3 点をあげている。

- ①基礎学力や技術・技能の習得を重視し、資格取

得等の援助を行いながら、生徒に自らの個性を自覚させる。

②工業高校としての魅力や特色を通じて地域・保護者の理解を深める。

③キャリア教育の推進を図り、教育活動全体をとおして社会人基礎力を身につけさせる。

学校自己評価システムシートは、従前、学校評価運営委員会で作成したが、本年度より企画委員会が中心となり作成し、職員会議の承認を得ている。シートの中では、現状と課題、評価項目、具体的方策、方策の評価指標を掲げている。これらをもとに、年2回学校評価運営委員会が事務局となり学校評価懇話会を開催し、学校関係者との意見交換を実施している。

## 5. 特色ある教育活動について

本校では、機械科、電気科、設備システム科、情報技術科の各専門学科を中心に県教育委員会の事業を活用した取組などを実施している。他校でも同様であるが資格取得の奨励を行い、関係学科において講習会や補習を実施している。

### (1) インターンシップ

本校では2年生全員が地元さいたま商工会議所に加盟している企業を中心にインターンシップを行っている。また、このインターンシップを実施する事前学習として商工会議所の支援を受け、バスによる事業所見学を複数企業に協力いただいている。生徒は、自身の興味関心の高い仕事内容にあわせ、希望調査を行ってから1日2社を見学する。現在、就職してからの早期離職等が問題視されている。生徒自身が企業とのマッチングを意識させるための一つの手段として有効である。なお、電気科においては3年生の一部が長期就業体験（デュアルシステム）をさらに取組んでいる。

### (2) 実践的職業教育グローバル事業

機械科および設備システム科においては、県高校教育指導課事業の上記事業「ものづくり力交流分野」に応募し取組んでいる。機械科においては、高校生ものづくりコンテスト旋盤部門へのチャレンジ、国家技能検定（普通旋盤作業）2

級・3級等の取組を高度熟練技能者（外部指導者）に、指導を依頼している。平成26年度埼玉県のものづくりコンテスト（旋盤作業部門）において、機械科3年千葉拓也君が優勝し、関東大会に出場した。関東大会では入賞は果たせなかったが、生徒の自信に繋がった。



高度熟練技能者より指導を受ける生徒たち

設備システム科においては、国家技能検定配管技能士（建築配管作業）及び冷凍空調和機器施工技能士の実技等の指導のため、ものづくりマイスターや1級技能士を招聘し、試験合格を目指した実践的指導を行っている。両学科とも、実務に携わっていらっしゃる方々に指導をしていただいているため、生徒自身の人間的成長が手ごたえとして感じられている。今後は合格率のアップにつながるよう工夫改善を図りたい。

### (3) プロフェッショナルに学ぶ

情報技術科においては、日本工業大学より講師を招き、『平行二輪車「セグウェイ」で体感するロボット制御の基礎』を学習している。二足歩行ロボットなどが倒れないようにするための基本的な物理法則と制御の基礎を講義と乗車体験から学んでいる。

設備システム科においては、昨年まで2年生で実施したものを1年生に移行し、ルームエアコンの取り付けと銅管配管工事（銅管ろう付けの溶接体験含む）を行っている。

### (4) 現場見学会

工業系学科は、学校の学習だけでなく、産業界の動向や技術の進展に直接触れることが重要

である。生産工場だけでなく、生徒にとって有益と思われる内容については積極的に現場見学を実施している。本校では、10月クール日本テレビ土曜夜9時ドラマ「地獄先生ぬ〜べ〜」の撮影協力を9月～12月上旬に行った。生徒に還元できる内容を検討し、設備システム科が建築系の学習において構造物を製作することから、日本テレビ生田スタジオの現場見学を11月22日(土)に2・3年生徒希望者を対象に実施した。生田スタジオは一般には見学できない施設であるが、制作会社並びに日本テレビ側の協力で実現した。特に、本校の管理・特別教室棟をモデルにした廊下などのセットは、色や艶まで50年以上の本校建築物を忠実に再現しており、その汚しと呼ばれる手法の一部を美術デザインの方に実演していただいた。当日は本校でのロケ撮影が行われていたため、生徒たちは自由にスタジオセット構造を見学することができた。



## 6. 基礎学力の向上

### (1) 基礎学力補習

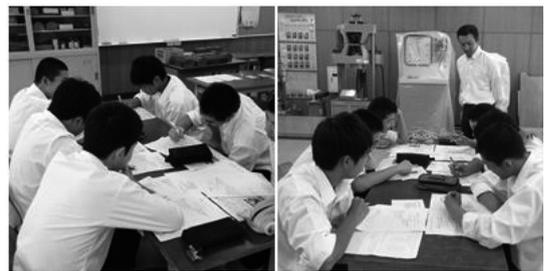
現在本校に入学してくる生徒は必ずしも工業の学習に興味関心が高い生徒だけではなく、様々な理由の中で工業高校を選択した生徒もいる。特に、各学科とも基礎的な数学の力を備えていないと専門学習にも支障がある。そのため本校では、20年以上にわたって数学の基礎学力補習を年2回(各4日間×2回)、中間考査等の成績をもとに数学科の協力を得ながら、教務部で計画実施している。この取組は全教員であたることから校長、

教頭も生徒の指導にあたっている。1人の教員が2～3名の生徒を直接指導し、問題作成や補習日の援助として数学科教員が対応している。指導する教員は、翌日対応する教員に対して申し送り事項を出席カードに記載し、受講している生徒の状況が簡単にわかるようになっている。



### (2) 学力把握実践研究協力校事業

本校機械科1年生の工業技術基礎4単位のうち、1単位分を工業的な内容に特化した数学や生徒のコミュニケーション能力の向上を目指し、取組を始めた。これについては、関東甲信越地区機械工業教育研究協議会で発表した。特に教科調査官が関心を示し、国立教育政策研究所教育課程研究センターの事業として協力しているものである。



写真は、平成26年10月27日に文部科学省教科調査官と県高校教育指導課指導主事の視察日に行われた内容である。「工業技術と人間とのかかわり」について、新技術である「炭素繊維」による車作りが社会や生活に与える影響について新聞記事を教材にし「肯定側」と「否定側」に分かれてディベートを行った。授業視察後、教科担当、管理職を交えた意見交換が行われた。

(文責 埼玉県立浦和工業高等学校長 宮原 浩)